



マニラ（マカティ）市内にある銀行の前を通過する際、車内から撮影した一枚である。

現金輸送車と、これを警備する武装ガードの姿。

見慣れた光景ではあるが、いつも緊張を覚える。

車がついた四角の物体は、何の飾りもないだけに、なおさら不気味である。（日本の自動車メーカー銘あり）

それでも、よくみれば、小窓があり、その下に穴がある。

有事には、車内の銃口が、ここから突き出て敵に火を噴くのだ。

写真のようなショットガン、また自動小銃を携えた武装ガードがこれを取り巻く。

それでも、現金積み込みや積み卸し、そして輸送中を狙った事件は、ここフィリピンではそう珍しくはない。

つい最近（3月29日）も、4名の武装ガードが死傷する現金強奪事件が首都圏で発生している。（犯人は逃走中）

この武装ガードの日当が500ペソ（約1000円）、危険手当が150ペソ（約300円）。

命をかけた仕事がこの値段、フィリピンの悲しい現実でもある。